

| | |
|------|---------------------------------------|
| 事業名 | カンボジア王国 小学校体育科教育支援事業 (JICA 草の根技術協力事業) |
| 分類 | 教育支援、組織化支援 |
| 支援団体 | カンボジア教育省、地方教育局、モデル小学校、モデル教員養成校 |

活動理由

カンボジアでは 1970 年代の内戦で、施設、人材教材等、教育システムが根底から破壊された。パリ和平協定以降、教育インフラの再建が進められているが、人間開発の根幹を担う情操教育は殆ど着手されていなかった。また、当該国では研究機関が未開発であるにも関わらず、未だ教育施設整備に偏った教育開発に留まっていた。さらに、国家の未来を担う子ども達の健康・健全育成を保証する上で最も重要な体育科は、週 1 回、朝礼時に行われる簡易運動のみに留まっていた。そこで、当会は教育省、JICA、筑波大学との連携を図り、体育科授業の全国的な普及に向けて、2006 年から 2009 年にかけて、指導要領の新訂、指導書案の作成を実施、2009 年から 2012 年にかけて、5 州 10 小学校、5 教員養成校を拠点校として、基本的な普及基盤を確立してきた。

今後はさらに教育省担当官の増員及び育成を図り、地方での体育科教育普及、指導書の正式な認定及び配付等が求められており、教育省が独自に事業成果を継続できる体制作りが必要である。

本年度の活動概要

- JICA-筑波大学との連携事業によって以下の支援内容を達成した。(2012 年 4 月～6 月)*2012 年 6 月をもって 3 年間に亘る本事業は終了
- ① 各地域(バタンバン州、シェムリアップ州、シアヌークビル州、クラチェ州、スヴァイリエン州)の拠点校を巡回し、モニタリング・評価を実施、6 小学校及び 2 教員養成校を研究指定校として認定。
- ② 教育省大臣・次官を含めた関係者に事業成果を報告。
- ③ 対象校で体力測定を実施し、測定結果の回収と集計方法の指導等を実施。
- JICA から派遣されていた青年海外協力隊員の渡邊氏によって、教育省体育科教育担当官育成の為の講習会を計 4 回開催し、特に教育省の体育科教育を推進する副担当官の育成に注力した。(2012 年 6 月～12 月)
- カンボジア・キッズ・サッカー大会<第 1 回ハート・オブ・ゴールドカップ 2013> 地方 5 州とプノンペンから 100 名の子ども達が参加、日本の小学生を含む支援者からの寄付にてボールやユニフォームも贈呈
- 教育省の小学校体育科教育担当官と共に、指導書の改訂を継続実施。
- 次年度開始予定事業に向けて、今までの事業対象の 5 州(バタンバン州、シェムリアップ州、シアヌークビル州、クラチェ州、スヴァイリエン州)を再度モニタリングし、対象の小学校・教員養成校の現状の把握・指標の設定基準等を確認した。(2013 年 1 月～3 月)



6 小学校、2 教員養成校が研究指定校に認定されました。



青年海外協力隊員の渡邊さんによるワークショップ風景。

本年度は JICA との草の根技術協力事業の最終年度にあたり、6 月をもって事業が終了した。その後、成果の 1 つである教育省の担当官の質を継続させるために、当会に派遣されていた青年海外協力隊員によって、計 4 回の講習会を実施した。その間、終了した本事業の後継事業を JICA の草の根技術協力事業にて申請し、2013 年 4 月から 2016 年 9 月までの計画の次事業が採択が決定した。決定後、先行事業で拠点校としていた小学校・教員養成校を再度訪問することにより、各拠点校の意識を向上させると共に、現状把握、指標の収集方法等の確認を行った

次年度の実施計画

- JICA との連携事業によって、2013 年 4 月から 2016 年 9 月までの事業の中で、「カンボジアの小学校体育科教育において、教育省学校体育スポーツ局が自立的に普及できる体制が確立される。」ことを目標とする以下の成果達成に向けた活動を開始する。なお、対象州は今までの 5 州(バタンバン州、シェムリアップ州、シアヌークビル州、クラチェ州、スヴァイリエン州)に加え、新たな対象州として、10 州(バンテアイミンチエイ州、コンポンチュナン州、プレアビヒア州、コンポントム州、カンポット州、コッコ州、ラタナキリ州、スタウトレン州、プレイヴェン州、タケオ州)を加える。
- ① NT が、対象 15 州に継続的に体育科教育指導を普及できるための専門家として育成される。
- ② 新規導入州を含めた 15 州において NT、RT が連携して体育科教育が普及できる地方の体制が確立される。
- ③ 教育省が体育科教育の重要性を正當に理解し、持続的な体育科教育の普及方法が導き出される。
- 指導書の改訂を完了させ、教材認定委員会(EMAB)による認定審査にかける。その後、EMAB によって公式認定された指導書を印刷し、主に JICA 草の根技術協力事業の対象となっている小学校・教員養成校に配付する。
- 小学校体育科の授業を発揮できる場としての運動会を拠点校で開催できるよう、専門家派遣を実施する。

支援・協力団体

カンボジア教育省、独立行政法人 国際協力機構/JICA、筑波大学、青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、岡山県庁、一般財団法人みんなで作る財団岡山、岡山南ロータリークラブ、大光電機(株)、ハート・オブ・ゴールド チャリティディナー実行委員会、泰阜村教育委員会、たまの親子チャリティーマラソンInおもちゃ王国、個人支援者、御津中学校PTA、岡山西南ロータリークラブ、函南東サッカースポーツ少年団、篠山ABCマラソン、サッカー大会支援者、